

翻訳の悦び、

— いま改めて、世界文学を読む —

注釈の楽しみ

2023
11/23

木・祝

時間
13:00～16:40
(受付開始12:30～)場所 高知県立大学 永国寺キャンパス
教育研究棟 A101講義室

会場定員 150人 参加無料

会場地図



Web申込



第一部 基調講演

▶ 13:00～14:00

オンライン登壇

「古典翻訳という冒険

— 中国四大奇書『金瓶梅』新訳に挑む」

田中 智行 (大阪大学大学院人文学研究科准教授)



第二部① 個別発表

▶ 14:10～15:40

「中国怪奇小説集

『聊齋志異』の翻訳世界」

高西 成介 (高知県立大学文化学部教授)



「明治文学への注釈と読解

— 注釈の正しさと読解の力学」

田中 裕也 (高知県立大学文化学部准教授)



「もうひとつの声

— テキストとしての注釈」

山口 善成 (金沢大学国際学系教授)



第二部② パネル討論

▶ 15:50～16:40

パネリスト 田中 智行
山口 善成
田中 裕也

司会進行 高西 成介

本来、「文学」はとても面白いものです。ところが、近年「文学離れ」とでもいうべき状況が起こってきています。とりわけ、外国文学への関心の低下は、若い学生たちの間でも顕著です。

外国の文学や古典文学を読む上で、何よりも必要なのは、「翻訳」です。また、古典文学などの場合は、「注釈」がそこに加わります。こうした「翻訳」や「注釈」を切り口に、広く世界の文学を楽しんでいただくきっかけをつくらうと、今回の企画を立てました。基調講演には、中国古典文学の中でも、名前だけは有名な一方で、難解なことで知られる『金瓶梅』の新訳を現在精力的に進められている田中智行先生(大阪大学)をお招きします。この新訳『金瓶梅』は、各所で大きな反響と高い評価を得ています。

また、第二部では、高知県立大学文化学部の教員を中心に、日本文学、アメリカ文学、中国文学の立場から個別発表とパネル討議を行う予定です。

高校生から年配の方まで、広く文学に興味、関心をお持ちの方に楽しんでいただけるシンポジウムとしたいと考えていますので、多くの方のご参加をお待ちしています。

開催方法

対面・Zoomのハイブリッド開催

※開催方法を変更する場合、開催前日 17:00 までに本学ホームページに掲載します。

申込方法

対面参加: 申込不要。当日、会場へそのままお越しください。

Zoom 参加: 事前に Web からお申し込み下さい。

URL <https://www.u-kochi.ac.jp/site/aeru/20231123.html>

申込締切

2023.11.17(金) ※Zoom 参加希望の方のみ申込要

※当日は駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用いただくか、近隣の有料駐車場をご利用ください。

※発熱や咳症状など体調不良の場合は、参加をお控えくださいますようお願いいたします。

※室内では水分補給以外の飲食はご遠慮ください。

※車椅子でのご来場など、配慮をご希望の方は事前にお問い合わせください。

問い合わせ先

高知県立大学文化学部事務 TEL:088-821-7175